

中国高校生ら伝建地区を散策 ～耐久高校 中国高校生招へい事業～

11月8日（金）中国高校生らが伝建地区を訪れました。
この日は、特に醤油のよい香りが漂い、より湯浅の醤油醸造の歴史を感じるこの日の日でした。学生らは、角長で醸造



甚風呂見学

蔵・醤油資料館を見学し、醤油の歴史や製造方法について学びました。その後、甚風呂で耐久高校生による英語での説明を受け、番台に座ってみたり、お風呂の中をのぞき見たり、写真を撮ったり、とても興味深く見学していました。

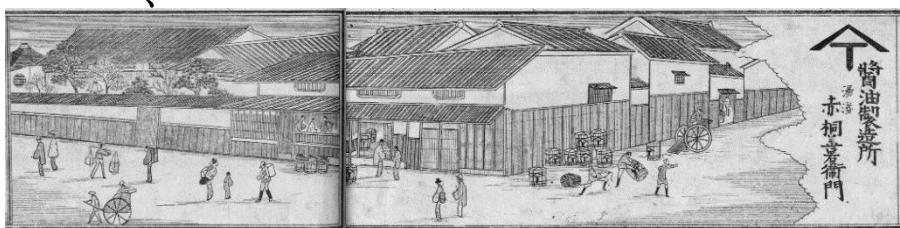
最後に合同で写真を撮るなど交流を深め、声をかけあっていた姿がとても印象的でした。



醤油資料館前で記念撮影

～湯浅の歴史について学ぼう～ 第7回

江戸時代の醤油醸造
湯浅における醤油醸造は、はじめは自家用として作られていたと考えられていますが、天文4年（1535）に大阪に醤油を運んだという記録が残っていることから、いわゆる戦国時代の頃には他所への販売、商品としての醤油が作られるようになっていたと思われます。
江戸時代に入ると、紀州徳川家の地場産品保護の施策のもと、湯浅の醤油は急速に繁盛していきます。
つば型の看板を掛け、「御仕入醤油屋」と書かれた標札を掲げた醤油醸造家は湯浅近辺に多いときで90軒を超えていたともいわれています。
『有田郡名勝豪商案内記』には、明治に入った頃の姿ではありますが、当時の有力な醤油醸造家の家構えが描かれており、町の雰囲気を感じることが出来ます。



醤油製造所 赤桐善右衛門

湯浅伝建地区保存協議会

皆様に瓦版をより身近に感じてもらうために、まちなみ瓦版の記事を募集しています！ご意見・ご要望などございましたら、右記のまちなみ瓦版編集委員まで連絡をお願いします。

■ホームページ <http://www.eonet.ne.jp/~denken-yuasa>

編集委員

半邊 宗五
妻木 良三
道津 節子
楠山 吉雄
油谷 太一



まちなみ瓦版

■令和 元年12月 1日
■第 48 号
■発行：湯浅伝建地区保存協議会
■発行責任者：木下 智之

報告

令和元年度湯浅伝建地区 保存協議会視察研修 in 脇町

11月20日(水)に保存協議会の視察研修として、「うだつの町なみ」で知られる徳島県美馬市脇町南町伝統的建造物群保存地区に行ってきました。

脇町は伝建の選定を受けて30年以上経過しており、私たちの大先輩にあたります。交流では、保存会の会長及び、町の施設運営やイベント開催をメインに活動している一般社団法人美馬観光ビューローの事務局長の2人よりそれぞれの組織や活動についてお話を伺いました。

【意見交換】

（脇町南町町並保存会について）

- ・保存会の活動は、町のイベントへの参加、町の美化活動として町のいたる場所に花の展示、他の伝建地区への先進地視察等である。
- ・保存会の運営資金は、委員からの会費(1,000～5,000 円) 及び市からの補助でまかなっている。
- ・保存会の総会には、議員や商工会、教育長等が出席してくれており、行政ともうまく連携できていると思う。

（美馬観光ビューローについて）

- ・総勢 23 名で活動している。施設の運営や町のイベントを実施している。
- ・5 件の施設を指定管理で委託を受けて運営している。
- ・元々はふるさと脇町という会社が施設の運営を行っていたが、その会社が観光協会と一緒にになり、今の美馬観光ビューローとなった。

（空き家のこと）

- ・MIMA チャレンジという事業で、古民家を2件改修し、ホテルやレストランとして活用する予定。
- ・空き家は多くなっている。普段住んでいないが、たまに帰ってくるような家も多い。

（ボランティアガイド連絡会について）

- ・美馬観光ビューローの事務局がガイドの受付等を行っている。
- ・美馬観光ビューローは、事務の手数料等は受け取らず、すべてガイド連絡会に渡している。※参加者の感想は2～3ページです。



交流風景



うだつが上がる町家



ガイドさんの説明 ガイド：塩田さん

保存協議会役員会 報告

日時：令和元年11月13日（木） 場所：北の町老人憩の家 1階
 議題：令和元年度湯浅伝建地区保存協議会視察研修について 等
 内容：11月20日（水）の視察研修の内容について協議をしました。
 また、旧栖原家の修理の状況について事務局より報告をしました。
 協議内容は以下のとおりです。



【協議内容】

<視察研修について>

- 視察先の滞在時間が短いので、バスでお昼をとることにする。
- 交流会での事前質問は、吉田家住宅の活用について質問をする。

<旧栖原家の工事・活用について現状の報告>

- 工事の状況については、建物に残る痕跡や部材の状況をみきわめながら慎重に進めているところであり、主屋、及び土蔵の改修は早くて来年度末の完成予定を目指している。
- 公開施設として活用を考えている旧栖原家について、住民の皆さんの意見を聞きながら活用の内容について考えていきたい。
- 修理中もしくは、完成後すぐに皆さんに修理内容等見てもらえるような機会があればと考えている。



旧栖原家工事現場

脇町南町伝建地区 視察研修参加者の感想

（湯浅伝建地区保存協議会委員）

- 三橋）どこかに寄って食事をとりたかったが、滞在時間が短く、余裕がなかった。
- 守屋）古民家を活用したくて、そういう目で見学をした。吉田家で販売されていた藍染のようなものがあれば良いと持った。
- 見矢）どこも持つ問題であるが、高齢化が進んでおり、空き家が多くなっていた。空き家をどのように活用するか考えていかなければいけない。
- 楠山）吉田家の収支を見ると、大きく利益があったのですごいと感じた。しかし、吉田家で藍染を販売していたが、他の事業者を圧迫していないかと心配した。
- 上野山）交流であちらの保存会が行政と仲良くしていると言っていたが、我々も仲良くできているのだろうか。
- 木下万）高齢化が大変であると感じたが、電線がなくてよかった。

- 木下）吉田家を運営している美馬観光ビューローがかなり活動的であった。旧栖原家の有効活用を考えた際に活動的な団体が必要であると感じる。今日は観光客が少なく感じたが、休日の様子が気になった。そのような中で収益が多くあがっているの、今後の栖原家の運営について吉田家の運営は参考になると思う。

（湯浅ボランティアガイド協会語り部）

- 高田）町並みが圧巻で、町家の木がすごく立派であった。
- 新名）鬼瓦や虫籠窓の町家が大変立派であったが、維持も大変であると感じた。

（甚風呂スタッフ）

- 丸山）重厚な町家が圧巻で、見るところが多かった。店が湯浅と比べると多かった。
- 山本郁）豪商の町家が圧巻で重厚だった。良かったのはガイドの塩田さんの待遇が良く、御もてなしの心を感じた。藍蔵（道の駅）のスタッフも愛想が良かった。
- 竹田）町なみの電柱が無く、道の舗装も10年に1回しているとのことで綺麗だった。吉田家がチリひとつ落ちておらず掃除が行き届いていた。湯浅にも道の駅の様なものが欲しいと思った。
- 田宮）甚風呂スタッフになって、まだ半年ほどであるが、楽しく学べた。ガイドの塩田さんの説明が良かったので、身につけたい。

（文化財保存審議会委員）

- 根来）うだつが鮮やかだった。大屋根の鬼瓦の上にあった鳥ぶすまの形がめずらしい形をしていた。



町並み



町家の内観



オデオン座外観



吉田家住宅内観